

関係者へのインタビュー結果について

1 インタビュー概要

旧赤星邸の利活用に際し、関連があると思われる方々に期待する事や気になることなどについてインタビューを行った。

- ・ 前所有者（1名）
 - ・ 赤星鉄馬の親族の方々（14名）
 - ・ 近隣住民（2名）
 - ・ 地域団体／コミュニティ・福祉（3団体）
 - ・ 地域団体／商工・観光（3団体）
 - ・ 地域団体／緑ボランティア（2団体）
 - ・ 地域団体／教育（3団体）
 - ・ 地域団体／子育て（3団体）
 - ・ 保存活動団体（1団体）
- } 前回報告済み

2 地域団体／コミュニティ・福祉

■進め方

- ・ 公園は良いが、建物を残しながらどういう利用ができるのか。NPO やプロに依頼した方が良いアイデアができるのではないか。
- ・ 色々な方の意見を聞かないと、市民も納得しないだろう。
- ・ 試行的に庭で遊んだり、部屋での懇談などできると良い。
- ・ 近所の方は関心を持っているだろうが、それ以外の方は迷惑にならなければ良いぐらいに思っているのではないか。
- ・ Zoom などを使わず、外出できない人もいるので、市報でアンケートするなど、アナログ方式による意見収集も選択肢としてあった方が良い。

■利活用

- ・ 礼拝堂の方が、築年数が浅いため、利活用できるのではないか。
- ・ 武蔵境にある武蔵野プレイスのような機能が東側にもあるとよい。ただ建物を保存しながらの利活用は難しそうだ。
- ・ 地域の人や市外の人など色々な人が楽しめる場所として、自由に使えると良い。
- ・ 有形文化財なので、建物の見学に内外から来るかも知れないが、高齢者もアクセスしやすいので、多世代の市民が使えるようにしてほしい。
- ・ 税金を払って、運営するのであれば、市民が優先して利用できるようにすべきだ。
- ・ 静かに楽しめるが良い。庭も茶会などで使えると良い。
- ・ 室内で高齢者が軽スポーツなど身体を動かせるとよい。
- ・ 子どもたちが自由に使える場所になると良い。他の施設はなかなか自由に使えない。2階の個室は学習室などに使えるとよい。
- ・ 庭で外遊びができると良い。
- ・ こども食堂などに使えると良い。
- ・ 地域のお祭りを旧赤星邸でできると良い。
- ・ 旧赤星邸は地域の高齢者もアクセスしやすく大人数も集まれるので、市民活動の場として使えると良い。

- ・ コミュニティセンターでできないような楽器演奏ができると良い。
- ・ 住宅地の中に立地しているので、使い勝手が悪かったり、音の問題が懸念される。

■運営

- ・ コミュニティセンターはボランティアで運営しているが、担い手不足になっている。ボランティアだけで運営するのは難しいだろう。そのためには利用料を無償にこだわらなくても良い。
- ・ 市民が利用運営するには、良い面悪い面がある。判断基準が不明瞭な施設もあるようなので、市民運営よりも民間事業者に任せた方が、管理方針が明確になってよい。
- ・ 入場料を取るより、募金や寄付金、ふるさと納税などで収益を得るようにしてはどうか。
- ・ 安全安心に管理できるようにしてほしい。そのためには最低限のルールが必要だ。夜は閉鎖するという使い方もありそうだ。

3 地域団体／商工・観光

■進め方

- ・ 旧赤星邸は市が高額で買ったものなので、市が買って良かったと思える使い方をすれば、市民も納得するだろう。
- ・ 市民の意見の最大公約数だと面白いものができにくい。少し反対があっても、個性のあるものを期待したい。
- ・ アクセスが良くないので、旧赤星邸を利活用しても、その恩恵を受けるのは一部の商店会に限られそうだ。
- ・ 吉祥寺地区にはもっと大きな課題が山積している。旧赤星邸に力を入れるより、公会堂に力を入れてほしい。
- ・ 旧赤星邸の利活用については色々内見があるが、吉祥寺に人が来なくなったら武蔵野市がダメになってしまうので、将来を担う子ども、孫世代のことを考えてほしい。
- ・ 令和9年オープンに向けた準備段階から、ガイドツアーなどで人が入れる機会を設けたい。人が訪れることで、赤星邸を知ってもらいたい。既存のウォーキングツアーに組み込んだらどうか。

■利活用

- ・ 部屋数が多いので、活用の幅がありそうだ。
- ・ 「アニメ武蔵野」として取り組みを市で進めているので、アニメやマンガと赤星邸が融合した施設として、アトリエや展示施設として活用したい。アニメとマンガをまちの活性化の柱にしたい。旧赤星邸がその目玉になる。
- ・ 商業者にとって大きなメリットがあるものができることを期待していないだろう。
- ・ アニメとマンガの話が出ているが、赤星邸と結びつけずに、市のレガシーとして残すにふさわしい落ち着いた場所になると良い。
- ・ 気軽に入れるきっかけ作りとして、イベントを早くやって、地域の人に認知を広げ、積極的な利活用のイメージを持ってもらってはどうか。
- ・ コミュニティセンターのような色々な活動ができる場より、コンセプトを決めてほしい。
- ・ 市民が集い、心豊かな時間が過ごせる憩いの場になれば、市民にとっても有益だ。

- ・ リピート利用ができるよう四季を感じさせることができるとよい。
- ・ 昭和9年当初に復元し、歴史を感じさせるようにしたい。
- ・ 音の問題は最近難しいので、騒音のことは絶対配慮した方がよい。地域住民を犠牲に
してはいけない。
- ・ 近隣への視線や騒音への対策は建物の工夫で解決できるのではないか。
- ・ 意匠を維持しつつ、安全性をどう維持するかが課題だ。
- ・ 文化財を活用すること考えることが重要だ。都市観光としての核にしたい。
- ・ 色々な人が使うと庭が荒れることなどが心配だ。予約制にすることも考えられる。

■運営

- ・ 無駄なお金を使わないことが前提だ。そのためにはあの場所でキャッシュが生み出せないといけない。建物を維持するにはお金がかかる。
- ・ 入場料を取る場所とフリーではいる場所などお金を生むしくみを考えないといけない。
- ・ 民間の力を使いながら、市の財政を減らす方向で運営し、20年30年後を見通してスタートを切ってほしい。
- ・ 旧赤星邸を貸してくれるなら、自分たちの団体に借りたいぐらいだ。
- ・ 成蹊大学が経営までコミットしてほしい。学生の活動の場になることも期待できる。
- ・ 武蔵野市にはボランティア意識の高い人もいるので、保存のためにかかわるしくみができるとうい。

4 地域団体／みどり

■利活用

- ・ 外から中の様子が見えると良い。
- ・ 建物の価値があるのでぜひ残してほしい。ただそれを見せるだけではもったいない。
保存とのバランスが難しそうだ。
- ・ みどりがまとまっているところが少ない。後から建設したところはない方がよい。
- ・ アカセコイヤがとてもユニークなので、市民にも見せてほしい。
- ・ 庭と建物が一体的な利活用として庭園美術館や牧野富太郎の住宅のような使い方ができるとよい。
- ・ 作品展示の他、庭にも立ち入れられるとよい。この地域にはみどりが少ない。
- ・ 庭には、木をたくさん植えたりしない方がよい。あまり色々な手を加えて植えるのではなく、元々あった植物を生かせるとよい。古くて大きな木や藤棚をいかせるとよい。花壇のある公園より、木の花があるとよい。
- ・ 巣箱を設置して鳥などが来て、さえずりや自然の音を楽しめるとよい。自分たちの管理している公園でも市民から庭に水があると、心地よいといわれる。旧赤星邸でもせせらぎがあるとよい。
- ・ 子どもが走り回るのではなく、静かに落ち着ける公園がよい。結局、禁止事項が増えてしまう。
- ・ 子どもが社会科見学などに来られるとよい。
- ・ ギャラリーのようにして、赤星家の歴史などが伝えられるとよい。
- ・ 避難場所が地域にないので、災害時に開放して避難できるとよい。近隣の方も避難場所として期待しているだろう。

■運営

- ・ 市に何でも任せるのではなく、ボランティアと役割分担できると良い。
- ・ 草花の手入れには人手がいる。水やりや除草のボランティアはいた方が良い。ボランティアでできることには限りがあるので、意欲はあるので、緩やかに参加できると良い。
- ・ 旧赤星邸の建物保存維持にはお金がかかるので、お金を取るしくみや有料エリアと無料エリアなど考えられるとよい。
- ・ 庭にいすやテーブルがあるとゆっくりお茶が飲めると良い。コーヒー販売店などがあるとよい。

5 地域団体／教育

■進め方

- ・ 子どもたちや学生は全く旧赤星邸のことを知らないだろう。高い塀をレーモンドの歴史など伝える場所として活用できると良い。
- ・ 周辺の小中学校の児童や生徒に見学させ意見をもらうことも大事だ。
- ・ 正式オープンまでに換気がてらイベントをしたり、コンサートなどを実施して、練習できると良い。

■利活用

- ・ 接触死亡事故も起きているので、人が集まってくることを考えると安全面に気をつける必要がある。
- ・ 建物まわりは死角が多いので、防犯面が心配だ。
- ・ 広く開放され、みんなが見学し、足を運んでみられる機会になると良い。
- ・ どこまで活用できるのか、保存がメインなのか、どのあたり活用できるのか分からない。市が買い上げて維持していくためには、活用しないと、維持費もかかるだろう。
- ・ 文化財のため丁寧に扱う必要がある。ルールをきちんと決めるいっぽう、自由に過ごせるような良い塩梅のルールが必要だ。
- ・ できれば今の形を崩さず、子どもたちが思い切り身体を動かすことができると良い。
- ・ 中学生が集まる場所がないので、そうした子どもたちが気軽に使える場所になると良い。
- ・ カフェができると、お茶が飲め、また収益も上げられて良い。
- ・ 公園と建物部分は別だと書いてあったが、公園に来た人もトイレや休憩場所として建物を使えると良い。
- ・ 児童図書館のような場所に使えるとよい。
- ・ クリエイティブな場所として活用できると良い。撮影場所として有料で貸出もできると良い。
- ・ コミュニティセンターとは異なり、予約なしにふらっと立ち寄れるようになるとよい。
- ・ 色々な世代の人が集まったり、演奏ができると良い。
- ・ 障害者や高齢者の働く場所として、落ち葉はきや昔の経験を生かすことができるようになるとよい。
- ・ 障害者には、情報が氾濫していて、インターネットでも適切な情報が得られない。情報がまとまっている拠点になると良い。

- ・ コミュニティセンターには自立支援のような場所がない。自立支援をテーマにすれば、固定の人だけの利用ではなく、色々な人が使って卒業し、循環して良い。自立支援は市が取り組むべき課題でもあるので、そうした場所にできると良い。
- ・ 第一小学校が防災拠点になっているが、補助的な拠点として活用できると良い。
- ・ 掃除教室や調理室を活用した調理実習など、子どもたちの学びや親子教室ができると良い。子どもたちの作品展などもできると良い。

■運営

- ・ 自分たちの活動拠点が無いので、使えると良い。ただ、自分たちの団体が赤星邸を使うといっても、いろいろ他にも事業をやっているの、どの程度管理運営者として関わられるかは疑問だ。
- ・ 文化財なので、どう維持していくか、素人でできるか疑問だ。
- ・ 以前は、近所の人と声を掛け合って落ち葉掃きをやってきた。地域の人が掃除していくと、自分たちも利用運営に関わっていると実感できるので、地域の人に関わると良い。
- ・ 有形文化財信部分のみしか残さず、後は壊してしまうことに税金を使ってほしくない。
- ・ 施設運営は、市直営しかないと思う。維持管理に専門性が求められることがありそうだ。
- ・ 活用の頻度によって管理方法は異なるだろう。近所の方が当番制でやるのか、専門の係がやるのか、どんな形にせよ管理やメンテナンスは必要だろう。
- ・ 企業や民間団体にお任せすると、地域団体は管理に口を出しにくくなる。利用しようと思っている団体が、施設の管理運営に参加する中心団体はNPOにして、管理運営団体を育てられると良い。

6 地域団体／子育て

■進め方

- ・ 子どもたちを連れて、みんなで旧赤星邸おさんぽプログラムをして、使い方アイデアを出してもらってはどうか。若い人が地域に目を向けてくれたら、地域がもっと発展すると思う。
- ・ 地域の子育て世代や子ども自身に意見を聞くようなプロセスをして頂ければと思う。このような情報にアクセスしにくい層に意見を吸い上げるための配慮があるとよい。

■利活用

- ・ 親子で自由に遊べるようにすることを、実際に旧赤星邸で実施するのは難しい。そもそもそうした使い方にそぐわないだろう。自由に遊んで良いといっておきながら禁止事項が増えてきている状態になっている。
- ・ まちづくりの視点で開発が検討されるべきだ。
- ・ 中学生や大学生と赤ちゃんについて触れ経験を積むような講座ができると良い。また親となる世代とのつながりができると良い。
- ・ 他にはない貴重な文化財。

■運営

- ・ ただ展示になると、コストがかかっていくため、人が集まるような場所にする必要がある。

- ・ 場所より人が大変だ。コーディネートする人やファシリテーターのような間に入る人の質が大切になる。ぽんと一つの団体に丸投げしてしまうと、その場所がその団体次第になってしまい、他の人がとても使いにくくなってしまう。
- ・ 地域は使いようだ。せっかくの財産なので、しっかりと活用する能力がどういう所にあるかが重要だ。

7 保存活動団体

■進め方

- ・ 税金だからと決め打ちにして、あとで取り壊すのではなく、お試し期間をおいてやってほしい。
- ・ 4年のうちにみんなの熱意が冷めてしまって、やり始めたときには熱が冷めないようにしてほしい。
- ・ 地域が反対するけれど、周りは賛成という極端な構造が生まれないように、いろいろな人がかかわるようにしてほしい。
- ・ 今は良いけれど、子や孫の代までその思いが受け継がれるように、地域に受け入れられるようにする必要がある。そのために今から手を打ち、発信していくのが旧赤星邸の役割だと思う。
- ・ 講演会や演奏会の利用はありそうだ。よく使っていたのは御御堂。地域の方がナレッジワークができるように4年間の中で活用できると良い。

■利活用

- ・ 本館の方は重要有形文化財として立ち入りもある程度制限してほしい。
- ・ 御御堂や離れは自由に使えた方が良い。地域のいろいろなお店が入ることで、活性化できるのではないかな。赤星鉄馬邸より修道女会の所持していた期間の方が長い。
- ・ 元々日本間だったところは日本間にしてお茶や四季折々の活動に使えるだろう。
- ・ 美術館にするのであれば、最初からそう使えるように建物を別途作った方が良さそう。
- ・ 高齢者や子どもたちや地域の参加しづらい方が、自分が好きなことを見つけることができるぐらい、建物自体に癒し効果があると思う。
- ・ 武蔵野市の多目的な場所に使ってほしい。庭もあるので、お茶会やお琴の演奏もできたり、姉妹都市などとの交流や、発表会や結婚式にも使えると思う。
- ・ 武蔵野市の所有になったので、一つの点だけで地域活性を考えるのではなく、面として考えてほしい。
- ・ 第一種低層住居専用地域だが、店舗なども特例としてできる可能性はあるだろう。特例をとれるためには地域の同意が必要。活用についてはいろいろな考え方があるだろう。
- ・ 旧赤星邸は壁が少ないので美術館は適さない。絵画は高く、入手にお金もかかるだろう。一回見たら終わりではなく、何回も足を運んでもらいたい。
- ・ モダニズム建築が見直されていて、旧赤星邸が日本のモダニズムとして、世界中に訴えれば、ヨーロッパをはじめ興味をもつだろう。
- ・ 赤星鉄馬、レーモンド、修道会に続いている想いを引き継いでいってほしい。一つの建物がなくなってしまうと、建物だけでなく培ってきた精神までなくなってしまうことになってしまう。守っていく必要がある。

- ・ モダニズム建築の資料が散逸しているので、アーカイブスとしての機能を旧赤星邸に担ってほしい。
- ・ 成蹊大学から浜邸やグリーンベルトとなって、面になって多角的な広がりをもった動きになってほしい。武蔵野歴史館などとも連携したい。近代建築を活用しようとしている所とも交流しているので、しないだけでなく横のつながりをつけてほしい。

■運営

- ・ 無料になると荒れてしまう。